

伊藤 不二男教授還暦祝賀論文集

<https://doi.org/10.15017/10736>

出版情報：法政研究. 38 (2/4), pp.1-3, 1972-07-15. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

伊藤教授還曆祝賀論文集

還曆を祝して

謹んで本書を

伊藤不二男先生に

奉呈する。

昭和四十七年七月

執筆者一同



九州大学教授 法学博士 伊藤不二男 先生

先生は、明治四四年三月二〇日福岡県田川郡香春町に生を享けられ、福岡県立小倉中学校、第五高等学校を経て、昭和一一年に東京帝国大学法学部法律学科を、翌一二年には同政治学科を卒業された。昭和一五年に九州帝国大学法学部大学院の業を卒えられた先生は、同大学副手、同助手、南山大学助教授、熊本大学助教授等を歴任されたのち、昭和二八年に九州大学助教授、翌二九年に同教授（国際法担当）に就任され、大学院法学研究科指導教官を兼ねて、今日に至っておられる。この間、先生は九州大学評議員、同法学部長、同学生部長、同付属図書館長などの要職につかれ、学内行政に尽くしてこられた。また、長年にわたって、国際法学会理事として、日本の国際法学の発展に寄与されている。

先生は、誠実な人柄と、厳しい学問的態度をもって知られる。先生の国際法学説の原典の正確かつ明快な訳文と、精緻を極めた厳密な原典批判には定評がある。先生は多作とはいえないかもしれないが、発表された業績はすべて珠玉の光を放つものばかりである。とくに、昭和四一年度日本学士院賞を授与された「ビトリアの国際法理論」は、「スアレスの国際法理論」とともに、単にその学説の全容を日本に伝えたのみならず、わが国における国際法学説史の礎石を築いた名著として高く評価されている。

先生は、わが国では全く未開拓の国際法学説史にとりくまれて三〇有余年、今やその基礎を確立された。しかし、先生はそのことに甘んじられることなく近代国際法学説史の体系化をめざして、孜孜として、グロティウスの学説の研究にあたられている。先生のその真摯な姿と学問的態度は、学問を志すものにとって大なる範である、といえよう。

伊藤不二男教授著書および主要論文目録

著書

スアレスの国際法理論

昭和三二年四月有

斐

閣

ビトリアの国際法理論

同 四〇年九月有

斐

閣

学術論文

フランシスコ・スアレスと国際法

昭和二五年六月 法 文 論 叢 一 号

フランシスコ・スアレスの国際法の基礎理論

同 二五年一二月 国際法外交雑誌四九卷六号

刑罰戦争の観念とその理論の形成について

同 二七年三月 法 文 論 叢 三 号

フランシスコ・スアレスの正当戦争論 (一) (二)

同 二八年六・八月 国際法外交雑誌五二卷三、四号

フランシスコ・スアレスの自然法理論

同 二八年九月 法政研究二〇卷二―四合併号

通商航海条約 国際法学会編「国際法講座」第二卷

同 二八年一月 有 斐 閣

中世の領事制度 (領事の名称と選任)

同 二九年二月 法政研究二二卷二号

中世の領事制度の特色 (領事の職務を中心として)

同 二九年三月 法政研究二二卷三―四合併号

アルベリクス・ゲンティリスの国際法の観念

同 三〇年三月 法政研究二三卷二―四合併号

近世における領事の地位

同 三〇年一月 法政研究二三卷一号

- インドールスの『語源』の考察 (一) (二)
 昭和三一年一月
 同 三二年三月 国際法外交雑誌五五卷五、六号
- アルベリクス・ゲンティリスの戦争の概念
 同 三二年七月 法政研究二四卷一号
- 国際法秩序と法 舟橋・青山編「法学概論」(全訂版)
 同 三二年九月 有斐閣
- グラティヌス『教会法』の国際法学説史上の意義
 同 三二年十二月 「法と政治の研究」(九州大学法学部創立三十周年記念論文集)(有斐閣)
- Theory of Suarez on International Law
 同 三三年三月 The Japan Annual of Law and Politics No. 6.
- ゲンティリスにおける戦争の質料因
 同 三三年十二月 法政研究二五卷二―四合併号
- グラティヌス『教会法』における正当戦争論の特色
 同 三四年十二月 法政研究二六卷二―号
- Theory of Suarez on International Law
 1960 (同三五)
 Anuario de la Asociacion Francisco de Vitoria XL. 1958
 — 1959
- 自衛権の法史
 同 三五年七月 国際法外交雑誌五九卷一―二合併号
- ヴィトリアの国際法理論における totus orbis の観念について
 同 三六年三月 法政研究二七卷二―四合併号
- ヴィトリアの正当戦争論 (一) (二)
 同 三六年六・八月 国際法外交雑誌六〇卷一号と二号
- ヴィトリアの国際法理論における ius gentium の観念について
 同 三七年一月 法政研究二八卷二―号
- グロティウス『捕獲法論』の研究序説
 同 三八年二月 法政研究二九卷一―三合併号
- ルネッサンス期の万民法思想
 同 三八年四月 法哲学年報(一九六二年度)
- 『捕獲法論』におけるグロティウスの国際法(万民法)の
 同 三八年一〇月 前原光雄教授還暦記念論文集
 『国際法学の諸問題』(慶応書房)

Alberico Gentili e Ugo Grozio

1964 Oct.
(昭和三九年)

Rivista internazionale di
Filosofia del Diritto, Anno
XLI-Fasc. IV-V.

『捕獲法論』におけるグロティウスの正当戦争論(一)(二) 同四〇年一・七月

国際法外交雑誌六三卷五号と六
四卷一号

アヤラの「戦争法論」における戦争の概念

同 四一年三月

法政研究三三卷二一六合併号

One Hundred Years of International Law Studies in
Japan

同 四五年三月
(同四四年度)

The Japanese Annual of
International Law No.13(1969)

グロティウス『自由海論』と『捕獲法論』第二章との比較 同 四五年一二月

法政研究三六卷二一六合併号

近世における領事の裁判権

同 四七年七月

法政研究三八卷二一四合併号

「国際法」(近代日本法思想史Ⅱ)

同 四七年

有 斐 閣

The peace ideas of Vitoria, Suarez and Grotius

1972

(同四七年)

Beiträge zu einer Ethik des
Friedens (Sozialethik und
Gesellschaftspolitik Herder)